

高金利通貨およびオーストラリア・ドル、
ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、
ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元
マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア

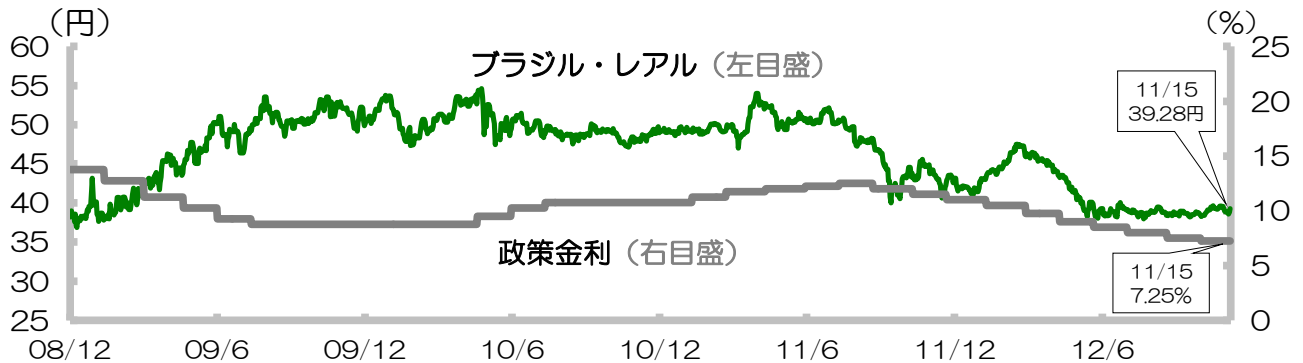


中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



ブラジル



【足元の金融市場の動き】～ブラジル・リアルは日銀の金融緩和観測から上昇～

ブラジルでは個人消費関連の指標は良好な水準を維持していますが、世界景気の減速を受けて、製造業の景況感や輸出額の頭打ちがみられます。ブラジル・リアルは景況感の改善が遅れていることや株価の下げに加え、自国通貨安の誘導とともれる要人発言などが下落要因となりましたが、日銀の金融緩和観測が支援材料となり上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～ブラジル・リアルは自国通貨安政策の観測などからレンジを切り下げ推移か～

景気については、足元では景気回復に遅れがみられます。実質GDPの先行指標である月次の経済活動指数に失速感がみられ、財政収支の悪化、さらには外部環境の不透明感も払拭できない状況が続いています。一方で海外直接投資による資金流入が高水準を維持していることや、中国景気の底入れ観測を受けた主要輸出品である鉄鉱石などの資源価格の安定期待もあります。ただインフレ圧力が強まっており利下げの可能性は低いとみられます。ブラジル・リアルは、利下げ打ち止め観測がある一方で、景気回復の遅れや政府の自国通貨安への誘導とともれる発言も出ており、レンジを切り下げ推移するとみています。



メキシコ



【足元の金融市場の動き】～メキシコ・ペソは株価下落、軟調な原油価格を受けて弱含み～

メキシコでは製造業全体では減速が続く、個人消費については消費者信頼感指数は小幅に持ち直したものの、小売売上高は頭打ちの傾向が続いています。政策金利は据え置かれました。メキシコ・ペソは、株価の下落や軟調が続く原油価格などを受けて弱含みで推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～メキシコ・ペソはレンジ内での動きか～

景気については、自動車輸出の増加が製造業を下支えているとみられます。一方で減少が続く海外就労者からの送金額については、米国の雇用状況次第では上向くことが期待されますが時間を要するとみられます。物価については中央銀行の7～9月期インフレレポートでインフレに対する警戒的な記述もみられました。当面の政策金利については、市場では利上げ観測が広がっていますが、米国の「財政の崖」、欧州債務問題など世界経済の先行き不透明感もあり、中央銀行は利上げに対して慎重な姿勢を継続するとみられます。メキシコ・ペソは原油価格、利上げ観測、米国景気などの動向をにらみつつ、レンジ内での動きになるとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



トルコ



【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは格上げなどを受けて上昇～

トルコでは政策金利は据え置かれ、上限金利である翌日物貸出金利が2カ月連続で引き下げられました。トルコ・リラは大手格付会社による国債の投資適格級への格上げ観測が強まり大幅に上昇しました。格上げ発表後は株価下落の影響から下げる場面がありましたが、日銀の追加金融緩和観測などから再び上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは財政緊縮の継続で底堅い動きか～

景気については、9月の貿易収支は輸出の減少により若干悪化しましたが改善傾向は続いており、鉱工業生産にも持ち直しがみられました。物価について同中央銀行は年末にかけて落ち着くとみていますが、先進国の量的緩和を受けた短期資金の国内流入、地政学的要因によるエネルギー価格の動向について注視しています。今後も翌日物貸出金利、1週間物レポ金利のスプレッドを調節することで緩和気味の調整を継続するとみられます。国債の格上げに加え、政府の打ち出した財政緊縮の継続が通貨価値の安定に寄与するとみられることなどから、トルコ・リラは底堅い動きを続けるとみています。



南アフリカ



【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは上昇した後、ギリシャ支援問題などから下落～

南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、南アフリカでは8月の小売売上高が市場予想を上回ったことなどから上昇した後、軟調に推移していた金価格の反発などから一段高となりましたが、その後は9月の製造業生産高が市場予想を下回ったこと、ギリシャへの金融支援に対する不透明感を受けた欧州債務問題に対する懸念が再燃したことから下落しました。

【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内での推移か～

景気については、拡大・長期化したストライキによる生産活動への影響が、すでに製造業生産高で確認されていることから、今後も同国景気の減速が鮮明になるとみられます。一方、足元ではインフレが加速していることから、同国準備銀行は政策金利を当面は据え置くとみられますが、景気動向を注視しつつ将来的には追加利下げに踏み切る可能性もあると考えられます。南アフリカ・ランドは、ストライキによる相場調整は一巡したとみられますが、欧州債務問題に対する不透明感が残る中、上値は重くレンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



オーストラリア



【足元の金融市場の動き】～オーストラリア・ドルは中国景気の底入れ観測、利下げ見送りなどから上昇～
 オーストラリアでは、企業景況感の悪化がみられた一方で雇用者数の増加が市場予想を上回るなど、国内経済指標は強弱まちまちでした。このような状況下、7～9月期の消費者物価指数の伸びが加速したこともあり、政策金利は予想外に据え置かれました。オーストラリア・ドルは、中国景気の底入れ観測、利下げの見送りに加えて日銀の追加金融緩和観測などもあり、上昇しました。

【当面の金利・為替の見通し】～オーストラリア・ドルは世界景気の先行き不透明感から上値は限定的か～
 同国準備銀行は、景気について米国は緩やかに拡大、中国は安定に向かいつつあり、自国はこれまでの利下げ効果を見守る段階としています。ただし景気を牽引してきた資源部門の投資は低水準にとどまり、個人消費の拡大や住宅市場の回復も限定的としています。政策金利についてはこれまでの利下げ効果を注視する姿勢を続けるとみています。オーストラリア・ドルは中国景気の底入れ観測から堅調に推移するとみられますが、資源価格の動向や世界景気の先行き不透明感、根強い利下げ観測などから、上値は限定的とみています。



ニュージーランド



【足元の金融市場の動き】～ニュージーランド・ドルは堅調に推移するも上値は限定的～
 ニュージーランドでは、7～9月期の失業率が7.3%と予想外に上昇し、雇用環境の悪化が懸念されました。7～9月の小売売上高も前期比で予想外のマイナスとなった一方、住宅建設許可件数などの住宅関連指標は堅調に推移しました。中央銀行総裁の交代後初となる金融政策会合では政策金利は据え置かれ、インフレ圧力の鈍化を受けて浮上していた利下げ観測が後退しました。ニュージーランド・ドルは、政策金利の据え置き、中国の経済指標の改善などから堅調に推移しましたが、国内経済指標の悪化もあり上値は限定的でした。

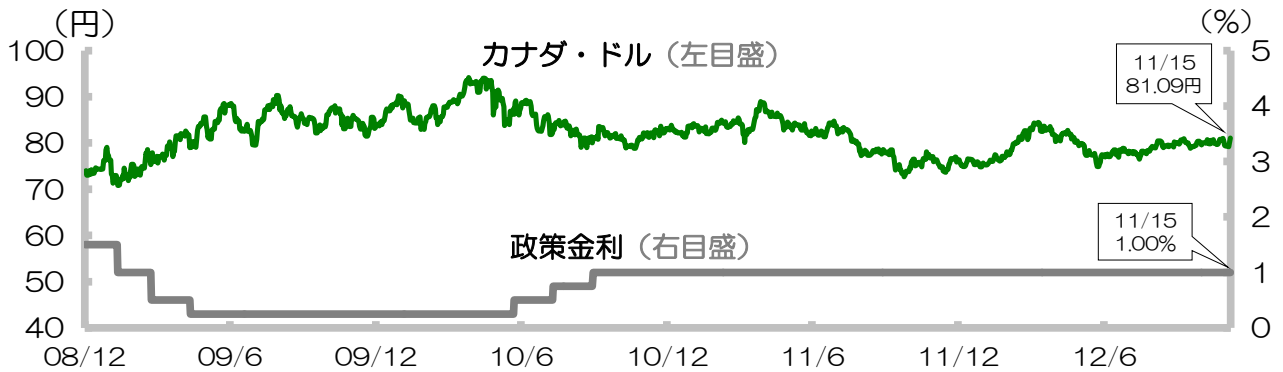
【当面の金利・為替の見通し】～ニュージーランド・ドルは中国景気の底入れ観測から底堅く推移か～
 景気については、低金利が下支えする住宅関連や復興需要を背景とした建設関連などが牽引役として期待される一方、緊縮財政による景気の下押しや、自国通貨高による国内産業への影響もみられ、緩やかな回復にとどまるとみています。政策金利は据え置かれるとみられますが、11月に入り軟調な経済指標が相次いだことから利下げ観測が再燃しています。ニュージーランド・ドルは、中国景気の底入れ観測に加えて、金融緩和を実施している主要国との比較では金利水準が高いこともあり、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の結果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



カナダ



【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは米国の「財政の崖」問題などから上値の重い展開～
 カナダでは、8月の実質GDPが-0.1%（前月比）となりました。原油や金属などの鉱業や製造業などを中心に幅広い項目でマイナスがみられました。9月の消費者物価指数は+1.2%（前年比）となり、依然として低水準に抑えられています。政策金利は、据え置かれましたが、金融引き締めバイアスは維持されました。カナダ・ドルは、利上げ観測の後退、軟調な原油価格に加えて欧州債務問題や米国の「財政の崖」問題などから、上値の重い展開となりました。

【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国の財政問題の動向を受けてレンジ内で推移か～
 景気については、個人消費や企業投資などを中心に緩やかに回復し、インフレ率も来年にかけて徐々にターゲット中央値(2%)まで上昇するとみられます。ただ、中央銀行は、欧州債務問題の悪化、輸出の鈍化、高水準の家計債務の3点を下振れリスクとしていることから注意が必要です。政策金利については、中央銀行は自国通貨高による輸出への悪影響を懸念していることから、外部環境を注視しつつ当面据え置かれるとみています。カナダ・ドルは、米国の財政問題の動向を受けてレンジ内で推移するとみています。



ノルウェー



【足元の金融市場の動き】～ノルウェー・クローネはレンジ内での動き～
 ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれました。ノルウェー・クローネの対円での動きは、大手格付会社がスペイン国債の格付けを据え置いたことを受けて、ユーロとともに上昇しました。その後は鉱工業生産が前月比でマイナスとなったこと、原油価格の下落、ギリシャへの金融支援に対する不透明感が下落要因となった一方で、小売売上高が市場予想を上回ったことなどが上昇要因となり、レンジ内での動きにとどまりました。

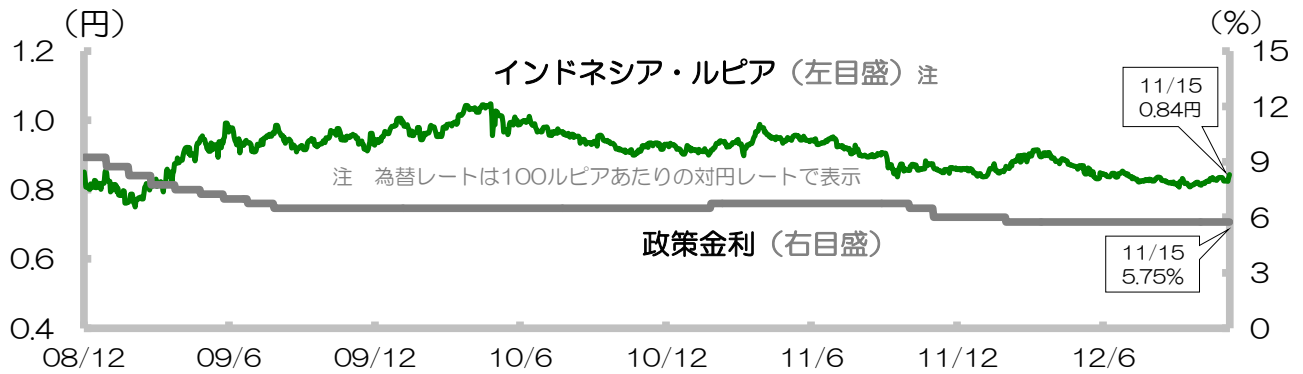
【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内で推移か～
 景気については、PMI（製造業）が景気判断の分かれ目となる50を下回って推移し、鉱工業生産が減速していることなど、引き続き欧州景気の悪化や通貨高の影響による減速が続いています。同国中央銀行は、こうした景気動向に加えてユーロに対し高値圏で推移する為替動向を注視し、現在の政策金利を維持し利上げ時期予想をやや先送りしています。ノルウェー・クローネは、欧州景気の悪化の影響やギリシャ支援問題に対する不透明感が残りますが、財政・経常収支が健全なことから、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



インドネシア



【足元の金融市場の動き】～インドネシア・ルピアは、海外資金の流入などから底堅く推移～

インドネシアでは、7～9月期実質GDPは前年比+6.17%となりました。堅調な個人消費や投資が寄与しました。9月の貿易統計では、2カ月連続の黒字となりましたが、7～9月期の経常収支は53.36億ドルの赤字となるなど、依然として通貨安圧力は続いています。政策金利については、外部環境の悪化による国内景気の下押し懸念が残る一方、インフレ圧力の上昇もあり、据え置かれました。インドネシア・ルピアは、世界的な金融緩和や堅調な国内景気を背景とした海外資金の流入から、底堅く推移しました。

【当面の金利・為替の見通し】～インドネシア・ルピアは、堅調な国内景気を背景に底堅く推移か～

景気については、輸出の停滞がみられますが、国内では高水準で推移している消費者信頼感指数など良好な個人消費、政府方針によるインフラ投資の拡大期待などから、内需を中心に堅調とみられます。政策金利については、国内景気に配慮し据え置かれるとみられますが、一方で過度な通貨安を抑えるために誘導金利の変動幅の下限に当たる預金金利の引き上げの可能性が示唆されています。インドネシア・ルピアは、堅調な国内景気、当局による自国通貨の下支え期待などから底堅く推移するとみられます。



中国



【足元の金融市場の動き】～中国・人民元は景気底入れ観測を受けた海外資金流入から堅調～

中国では、10月の製造業PMI(政府発表)が50.2と3カ月ぶりに景気拡大の分かれ目となる50を上回りました。また、消費者物価指数(前年比+1.7%)に落ち着きが見られ、輸出入や鉱工業生産、小売売上高などは伸びが改善しました。中国・人民元は、国内経済指標の改善、景気対策への期待などを背景に海外資金が流入し、堅調に推移しました。また対米ドルでは、前月に続き1993年末以降の最高値を更新しました。

【当面の金利・為替の見通し】～中国・人民元は海外資金の流入から底堅く推移か～

景気については、底入れ観測が高まってきました。ここ数カ月で主要な経済指標に改善がみられましたが、主要輸出先である欧州の景気停滞は長期化するとみられることから、同国景気の回復は緩やかなものとみられます。また市場で期待されている景気対策も含めた、新政権の経済政策運営が注目されます。中国・人民元は、先進国の金融緩和、国内の景気刺激策や資本市場の段階的な規制緩和に対する期待などを受けた海外資金の流入を背景に、底堅く推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。